

養成医かわら版

NEWSLETTER

自己紹介

名前：林 友鴻

現職：神戸大学大学院医学系研究科 地域医療支援学部門 特命准教授
兵庫県立丹波医療センター 地域医療教育センター長

趣味：映画鑑賞、バスケットボール

経歴：

2007年 三田市民病院 研修医

2008年 神戸大学医学部附属病院 研修医

2009年 国立循環器病センター 心臓血管内科部門 レジデント

2012年 国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 心不全科専門修練医

2014年 神戸大学医学部附属病院 循環器内科 医員

2019年 米国ワシントン大学セントルイス校 循環器内科 客員研究員

2023年 神戸大学医学部附属病院 循環器内科 医員

2023年 神戸大学大学院医学研究科 地域医療支援学部門 特命助教
兵庫県立丹波医療センター 内科・地域医療教育センター

2026年 現職

認定資格など：

日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本専門医機構 総合診療専門研修特任指導医

日本病院総合診療医学会 認定医、日本循環器学会 循環器専門医、医学博士

日本腫瘍循環器学会若手の会 (JOCS-NEXT) 研究班員、Frontiers in Cardiovascular Medicine, Associate Editor

受賞歴：

2016年 HMTメタボロミクス先導研究助成 奨励賞、2018年 第26回日本動脈硬化学会 若手研究者奨励賞 (論文賞)

2018年 持田記念医学薬学振興財団 留学補助金、2018年 MSD生命科学財団 海外留学助成 生活習慣病領域

2019年 ライフサイエンス振興財団 国際交流援助、2020年 上原記念生命科学財団 海外留学リサーチフェローシップ、2022年 第39回日本循環器学会 YIA (Clinical Research部門) 優秀賞

【診療のキャリア】

卒後1年目は三田市民病院で初期研修を行い、地域医療の現場で common disease を幅広く経験しました。その後、国立循環器病研究センターと神戸大学医学部附属病院で計11年間、循環器診療と研究に携わりました。

国立循環器病研究センターでは、重症心血管疾患の診療を数多く経験し、心エコー・血管エコー、心臓カテーテル検査・治療、補助人工心臓管理など、専門的な技術を身につけました。また、腎臓・高血圧、糖尿病・脂質代謝などの研修を通じて、心臓だけでなく全身を診る視点も学びました。熱心な指導医の先生方から、患者さんに丁寧かつ情熱を持って向き合う姿勢を教えていただいたことも、現在の診療の礎となっています。

神戸大学では大学院生として研究にも取り組みました。研究を始めたことで、日々の診療でも「なぜこの病態になるのか？」と考える機会が増え、患者さん一人ひとりをより深く、科学的に診るようになりました。臨床と研究は互いに高め合うものだの実感し、現在もその両方を大切にしています。

2023年からは神戸大学大学院医学研究科 地域医療支援学部門に所属し、兵庫県立丹波医療センターを拠点に総合診療に取り組んでいます。外来・入院診療に加え、ミルネ診療所での訪問診療にも携わり、急性期から在宅・緩和医療まで、幅広い患者さんを診療しています。2025年度には多可町の杉原谷診療所にも出向し、外来・訪問診療を行いました。医療資源が限られた地域で診療する中で、病気だけでなく、生活・家族・介護などを含めて患者さんを診ることの大切さを改めて実感しました。

これまで、専門性を深めることと、幅広く患者さんを診ることの両方を経験してきました。これからも、皆さんとともに謙虚に学び続ける姿勢を大切にしながら、「専門力＋総合力」をさらに磨き、医療を通じて地域社会に少しでも貢献できるよう努めていきたいと思っています。

【研究のキャリア】

これまで主に心血管病（心不全・心筋炎・たこつぼ症候群・虚血性心疾患・腹部大動脈瘤）をテーマに、臨床研究と基礎研究の両方に取り組んできました。大学院では腸内細菌や免疫に着目して心血管病の病態を研究し、米国留学中にはシングルセルRNAシーケンスなどの最新技術を用いて、たこつぼ症候群や心筋炎の免疫学的な病態解明と新規治療法の開発を進めました。また、心筋炎患者約300万人の臨床データを用いたビッグデータ解析にも取り組みました。

研究を続ける中で感じたのは、「臨床で感じた疑問が研究の種になり、研究で得た知見がまた診療に返ってくる」という面白さです。

2023年からは地域医療支援学部門に所属し、これまでの研究経験を活かして、地域医療やcommon diseaseをテーマとした研究にも取り組んでいます。その一つとして、総合診療プログラム所属の小林 崇人先生と、訪問診療患者のデータを用いて、AIによる「往診が必要となる患者」の予測モデルを開発する研究を進めています。良好な結果が得られており、現在、論文化と学位取得に向けて取り組んでいます。

今後も、「現場のちょっとした疑問」を研究につなげ、明日の診療に役立つエビデンスを生み出していきたいと思います。県養成医の皆さんも、日々の診療で「これって本当かな？」「もっと良い方法はないかな？」と感ずることがあると思います。実は、そうした素朴な疑問こそが研究のスタートです。地域医療に取り組みながら大学院で研究することも可能になっていますので、興味のある方はぜひ気軽に相談してください。一緒に「臨床の疑問」を「研究」に変えて、日々の診療や地域医療に役立てていきましょう！



<米国ワシントン大学セントルイス校の研究室にて>

心臓免疫学の第一人者で、米国心不全学会の元会長でもあるDouglas L. Mann教授に研究指導を受けました。臨床医としても世界的に著名な先生ですが、とても利他的で、コロナ禍の留學生活では私だけでなく家族にも温かく接してくださるなど、心から尊敬できる先生でした。研究について多くを学んだことはもちろんですが、Mann先生の人柄や生き方に触れたことが、私の人生観を大きく変えるきっかけとなりました。



<兵庫県立丹波医療センター 総合診療メンバー (2025年)>
総合診療を支える仲間たちと。上段左から3番目が私です。